

1	特集・能登半島地震	2
	復興の地域づくりと情報発信	2
	看護大学が果たした役割	6
	金沢大学の取り組み	7
2	いしかわ地域づくり塾の報告	8
	ゼミ・県外研修編／受講生インタビュー	8
	インターン編／地域づくり塾のお知らせ	10
3	大学と地域が連携する地域づくり	11
	地域課題研究ゼミナール支援事業	11
4	奥能登ウェルカムプロジェクト	12
	「能登回廊 100 選」の取り組み	12
5	県内で活躍する団体の紹介	13
	加賀国際交流会「たぶんかネット加賀」	13
	菅谷町活性化協議会	14
6	NEWS & INFORMATION	15
	地域づくりとは何?／活動メンバー募集／イベント	15

いしかわ地域づくり 往来

www.pref.ishikawa.jp/shinkou/juku/

発行日／平成 19 年 9 月 30 日

発行／いしかわ地域振興推進協議会

発行者／いしかわ地域振興推進協議会事務局 事務局長 森田 美恵子

〒920-8580 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地

石川県企画振興部地域振興課内

TEL.076-225-1312 FAX.076-225-1328

E-mail chiiki2@pref.ishikawa.lg.jp

vol.1

I s h i k a w a L o c a l R e v i t a l i z a t i o n A l l R i g h t



復興の地域づくりと情報発信

インターネットが被災者と支援者を結びつけた

石川地域づくり協会コーディネーター 赤須治郎

1 被災地からの 情報発信

地域づくり活動に情報発信がいかに重要であるかを、能登半島地震での事例を借りて説明してみたい。とりわけインターネットの活用が、運営基盤の脆弱な住民主体の地域づくり団体に、かなり有効であることを伝えたい。

この原稿を書くために、地震発生直後にやりとりしたメールやホームページを読み返した。そこには初めての出来事に慌てふためく自分が書かれていた。あるいは、それでも何かを始めなくては、と気を取り直す自分もいて、当時の記憶がまざまざと蘇り、ついつい読みふけてしまう。

ただ、ここで言いたいのは、そういうことが記録されていて、当時を懐かしむことができる、ということではない。地震発生直後の混乱しているときに、インターネットを活用して、地域づくり仲間の間で活発な情報交換が行われ、そこから何らかの行動が起きた、ということを言いたいのである。

2 被災地からの メール

地震発生直後は金沢でも電話が通じにくくなった。一方、メールは災害に強かった。私のところに第一号のお見舞いメールが届いたのは10時32分、地震発生後の40分後である。長野に住む知人が送ってきた。

被災者からメールが来たのは深夜の1時46分である。石川地域づくり協会の運営委員会メーリングリストを通して、輪島市門前町の岡本紀雄運営委員が現地の様子を伝えてきた。被害状況、役場の対応、ボランティア・センターの設立などが書かれていた。受信した運営委員たちは、すぐさま、全国の仲間に向けてこの情報を発信した。メールは文書なので要点が整理されている。だから引用しやすいし、そのまま転送することもできる。これが電話で伝えるとなると、「伝言ゲーム」のように、内容が変質する恐れがある。混乱の中で書くのは大変だが、文章化がメールの情報発信力を高めたのである。

テレビの取材を受ける白藤喜一氏。取材はありがたいが、「手をとられて、仕事に影響が」と複雑な心境を書いている。(4月7日)



白藤酒造店 <http://www.hakoutousyuzou.jp/>

今年のお酒は地元産の酒造好適米「五百万石」を使う。契約農家で田植えを手伝う。(5月19日)



輪島市鳳至上町通りご案内 (女将さんのブログ) <http://blog.goo.ne.jp/fugesikamimachi>

7月、土蔵の解体工事が始まった。写真は井戸埋めの神事。(7月12日) 写真はいずれも白藤酒造店のホームページより。



インターネットが被災者と支援者を結びつけた

石川地域づくり協会コーディネーター 赤須治郎

3 被害を伝える 酒蔵のブログ

地震直後のマスコミ報道は道路や住宅など、目立つ場所の被害報道が中心で、知人の安否といった個別具体的な要望に応えるものではなかった。これは仕方のないことである。

しかし、日本酒ファンの私は能登の酒蔵のことが気になった。そこでインターネットを調べ、輪島の白藤酒造店の女将さんのブログに辿り着き、酒蔵の被害を知ることができた。

地震が起きた3月25日のブログに白藤さんは被害状況を記し、「これも試練のひとつと思い、家族皆で頑張ろうと思っています」と酒蔵復興への決意を述べている。

疲労困憊している中でブログを書くのは気力が要る。簡単ではない。しかし、茫然自失のままではいけないのも、もうひとつの現実である。白藤さんは自らを奮い立たせ、ブログで状況を伝えた。直ぐに全国の白藤ファンから応援メッセージが届き、後片づけのボランティアが酒蔵にやって来た。

国会議員が視察に来るといので、店の前で要望書を書いているところ。店の中は散乱して作業できない。(5月1日)



幸寿しのブログ <http://kouzushi.her.jp/blog/>

4 寿司屋のブログに 地震の写真

穴水駅前の「幸寿し」も甚大な被害にあった。店主のブログを見ると3月25日は「店の中はもうグチャグチャでひどい状態」と書き、27日には、ご近所で被災した30軒ほどのお宅に気遣い、自分の店は友人の応援で片付けが進んでいるが、「自分の店だけが営業出来る状態になっても、私は営業をしません」と書いている。自ら撮影した穴水町の地震被害写真を大量に掲載し、穴水町復興対策会議の様子を伝えるなど、幸寿しのブログは穴水の情報センターの様相を呈している。

7月には店の開店にこぎ着けた喜びを綴り、新潟県の旧山古志村に「恩返し」と称して穴水の仮設住宅の住民が手縫いしたタオルを届けたこと、東京からの観光客が13名来店したこと、映画「能登の花嫁」を撮影中の監督が来店したことなどを伝えるこのブログは、穴水町の復興そのものである。この活力をひとりで作り出せるのがブログの強みだ。

穴水町の仮設住宅が出来上がったことをブログに載せている。(5月1日)



新しい店が開店したこともブログで発信。(7月19日)



インターネットが被災者と支援者を結びつけた

石川地域づくり協会コーディネーター 赤須治郎

5 災害ボランティアが ブログで情報発信

地震発生と同時に県外から災害ボランティアがやってきた。彼らは災害現場での活動に精通しており、いまこの瞬間に必要なコトをその場で言い、必要なモノやコトを、後方で待機している仲間に伝える。ここでもブログが活躍した。横浜市在住のクロサワツカサさんが運営する「災害系ボランティア情報ブログ・雨ニモマケズ風ニモマケズ」もそのひとつである。3月25日のブログを見ると、10時に速報を伝え、災害ボランティア仲間が現地に向かったと書き込んでいる。18時15分には先発隊が七尾に入ったこと、19時36分には諸岡公民館に200人ほどが避難し、炊き出し中であることなど、この日だけでも8本の情報を書き込み、その日の輪島市の職員との打ち合わせ写真も掲載した。前線の災害ボランティアと後方の情報ボランティアの連携により、リアルタイムで情報が全国に発信され、後続のボランティアに活用された。

6 能登の 復興を伝えるブログ

地震直後の混乱が治まると復興の活動が始まる。輪島では県内の建築士や大工などが集まり、損壊した建物や街並みを保全する活動が始まった。このグループは3月29日にブログを立ち上げ、建物の復旧修理に関する無料相談会の開催を伝え、ボランティアを募集した。その後も、現地調査、報告会、土蔵修復セミナーやワークショップを行い、その度にブログに様子を書き込んでいる。ボランティア活動の多くは現場での活動に手を取られ、広報活動が後手に回りがちになるが、このグループは日報を書く感覚で情報発信を続けている。5月からは紙媒体のニュースレターの発行も始めた。ブログを読まない被災者もいるからだ。ブログで記事を書き貯めているので、紙媒体の製作も難しくない。不安な状態にある被災地では、何が起きているかを被災者に知らせることも立派な支援活動である。ブログはその有力な手段になっている。

土蔵修復活動の説明会。春の連休中に行う調査の説明会を「いろは蔵」で開催。30軒以上のお宅が参加したと書き込んでいる。(4月26日)



土壁修復セミナー。大学生ボランティア15人、左官、大工、建築家、土蔵所有者など30人が参加。(6月17日)



大崎邸の土壁修復工事。泥団子を小舞に投げつける「手打ち」という作業をしているところ。30人がボランティア参加。(8月30日)



輪島の土蔵修復活動のブログ <http://wajimareno.exblog.jp/i6/>

インターネットが被災者と支援者を結びつけた

石川地域づくり協会コーディネーター 赤須治郎

7 元気な能登を伝えるサイト

地震の被害は家屋倒壊などの直接的な被害に止まらず、いわゆる風評被害が広がる恐れがある。営業しているのに客が来ない状態では復興もおぼつかない。こんなときだからこそ能登に来て欲しい、能登の産品を買って欲しいと訴える動きが現れた。

地域づくりコーディネーター高峰博保氏は会社のホームページの中に「能登半島地震関連情報・能登は元気に営業中!」を開設し、地域づくり仲間である約200軒の旅館や飲食店の営業情報を集めて紹介した。

旅行ブログ「はれっとの旅路具」では「能登は元気だ・復興勝手連プロジェクト」を立ち上げ、インターネット上に公開されている約50本の地震関連記事を紹介した。個店の取り組みや一本の記事は、それだけでは情報発信力に乏しいが、特集的にまとめると注目度が上がり、発信力も高まる。リンク機能はインターネットの強みである。

門前の阿岸公会堂避難所で行われた「足湯隊」の活動。地震で怖かったことなどを話すことも足湯の大切なメンタル効果、と書いている。(3月31日)

雨ニモマケズ風ニモマケズのブログ
<http://blog.canpan.info/makezu/>



能登半島地震関連情報・能登は元気に営業中!! <http://www.groovy-net.co.jp/>

「みみずく舎」ホームページのニュースでは、Buy 能登、Visit 能登キャンペーンの反応が良く、スロー系の食品の評判が良いと書いている。(4月27日)

みみずく舎のオンラインストア
<http://www.mimizuku.cc/cart/cart.cgi>



はんたろうのがらくた工房のブログには、はんたろうさんが作成した「能登は負けない。」のステッカーが掲載され、誰でもダウンロードして使えるようになっている。(4月12日)

はんたろうのがらくた工房
http://blog.goo.ne.jp/hantaro_knzw



8 神戸で能登産品を販売する店が誕生

地震直後に私は「能登のお酒を飲もう!」とメールで呼びかけ、ホームページにも同様の記事を載せた。記事には半年で3856人がアクセスしてきた。メッセージはひとり歩きし、神戸にあるフェアトレードショップ「みみずく舎」にも届いた。みみずく舎では“Buy 能登キャンペーン”と銘打ち、“いしり”や“能登の塩”の販売を始めた。能登まで足を運ばなくてもできる復興支援と考えたからだ。更に、能登産品のインターネット通販にも取りかかり、能登とのつながりを一時的なものに止めず、継続する体制ができた。

さて、能登半島地震を例に、インターネットを活用した情報発信をいくつか紹介した。ここでは、それぞれのブログやホームページに書かれているメッセージの中身には触れていないので、ぜひ目を通して欲しいと思う。それらが被災者の心を癒し、人の交流や物流を造り出す力を発揮したのであるから。

看護大学が果たした役割

能登半島地震時の支援活動を体験して

石川県立看護大学 学生部長 川島和代

この度の能登半島地震は、石川県では経験のない大きな被災体験であった。本学でもいち早く学生達の安否の確認をとの学長の指示で、能登地区に在住している学生およびその家族の方々の安否確認を開始した。家屋が損壊した学生もいたが、無事を確認し安堵した。

被災状況が報道されるに従って全国の看護系大学や看護職者からも当大学へ支援の申し出が相次いだ。それらの声に勇気を得て看護の専門職として被災地の支援の準備を始めた。翌日には県からの要請があり、2～3人1チームの本学の教職員や大学院生が門前地区の高齢者世帯などの家庭訪問および避難所に医療ボランティアとして順次駐留することになった。派遣された人数は実質32人、延べ76人にのぼった。さらには、学生の中にも一般ボランティアとして支援に加わった者もいた。

派遣先の門前では地区保健師が細やかに地域住民を把握して、医療ボランティア等の調整を図りながら支援にあたっていた。避難所では高齢者や子ども、障害者、妊産婦など災害弱者が不便な生活を強いられる。被災者は、ストレスフルな状況下で高血圧、不眠、肩凝り、頭痛、腰痛などの身体愁訴が多くみられた。これからの生活に先行きの見えない不安を口にされた方もいらした。こうしたからだやこころの不調に、看護学が蓄積してきたケアを適用できる瞬時の判断力が求められると感じた。

こうした本学の支援の体験から、災害時にこそ地域の住民のパワーをひきだそうとする視点と、保健・医療・福祉・行政の専門職と連携できる実践力が問われる。災害時にも住民を支えることのできる看護職を育成しなければと本学の役割を改めて確認した貴重な経験であった。

5月には学生、教職員、看護職向けに報告会を開催した。

今後も仮設住宅での高齢者の支援や被災後のPTSDへの対応など、長期的な支援の取り組みが課題である。

被災者の血圧をはかる看護大学教職員。

避難所で医療ボランティアとして駐留する看護大学教職員。



金沢大学の取り組み

能登半島地震時の支援活動を体験して

金沢大学理事・副学長 長野 勇

3月25日（日）午前9時42分、ほとんど誰もが予想しなかった能登半島地震が発生し、輪島市、七尾市、穴水町で震度6強を記録した。地震直後から、金沢大学の地震学や地震防災工学から成るグループが震害調査で現地入りした。同じ頃、災害派遣医療チームも救急医療や被災者の健康管理に能登へ入った。金沢大学は能登半島地震対策本部を設置、その下に学術調査部会や医療支援、学生・教職員対応の3本柱を設け、ボランティアや義援金を含めて、県内唯一の総合大学として、震災復旧や復興に全力で取り組んでいる。

学術調査部会は25グループの調査班、130名以上の教職員で組織され、地震の発生機構や建物、経済、社会の被災状況、人々への影響に関する調査に従事している。これまでに報告会と3回のパネル展を開催した。来年3月までに能登での報告会と報告書の作成を予定している。

医療支援に関しては、地震直後から他の医療機関などと連絡調整しながら、医学部附属病院や保健学

科が、救急からその後の心身のケアに至るまでを支援し、見守っている。

石川県や輪島市、関係団体などから被災原因の究明や復旧や復興のまちづくりなどに知恵を貸すようにと依頼され、委員などに就任し、現地へ何回も出かけた教職員もいる。

ボランティアに関しては教職員のみではなく、学生が県の仕立てたバスに乗り込んだり、金沢大学社会貢献室の呼びかけに応じたり、あるいは個人で現地に出かけ、地震で壊れた家屋を片付けたり、家具などを元の位置に戻したりすることに汗をかいた。

救急からその後の心身のケアに至るまでの打ち合わせをする災害派遣医療チーム。



金沢大学の職員と学生によるボランティアチームが震災4日目から被災地に入り活動を始めた。（輪島市門前町／3月28日）



2-a いしかわ地域づくり塾の報告

「地域づくり活動の継続・発展を目指して」をテーマに、いしかわ地域づくり塾（ゼミ・県外研修編）を開講しました。昨年度の特別講座に引き続き、金沢大学大学院人間社会環境研究科の赤松俊彦教授を講師に、少人数のゼミ形式での講義やディスカッションを行いました。

ゼミ・県外研修編 (H19.6～8)

第1講 住民と行政の関係を考える

“考えること” “ネットワークを作ること” を目的に、ゼミ・県外研修編がスタートしました。住民と行政の関係がテーマの第1講では、「行政を批判するだけでなく、いかに動かすかが重要である」との講義をいただきました。「頼るのではなく、自分でやる」、これは全講座を通じてのポイントとも言えるでしょう。



講師は金沢大学大学院の赤松教授。

第2講 活動の担い手について考える

「周囲の人を地域づくりに巻き込むにはどうしたらよいか」、人を活動に参加させることは容易なことではありません。活動の担い手を増やすには、活動に参加させたい人のメリットを考えることが必要です。受講生とのフリーディスカッションを通じて、意見を交換しました。



フリーディスカッションでは受講生が中心となり、様々なテーマで議論がなされる。

地域づくり塾で自己研鑽に励む受講生を直撃インタビュー！

講座の感想や地域づくりへの熱い思いを聞いてみました

受講生インタビュー①

吉野隆久さん 羽咋市

NPO 法人わくわくネットはくいの理事。はくいの郷土史を学習する会を発足、代表を務める。羽咋の観光ガイド養成講座講師も努め、幅広い分野で活動中。



Q 吉野さんは昨年度に引き続きの受講となりますよね？

A 今回羽咋から2人を講座に誘ったので、私も出ないとね。また、自身の

活動では、観光ガイドボランティア養成に行政が着手してくれたり、郷土史の勉強会が発足したりと新たな展開があったのですが、その上でもう一度自分の考えを整理したいと思ひまして、受講を決めました。

Q 講座はご自身の活動へどんな影響を与えていますか？

A ネットワークが広がり、交流することで自分たちの活動を確認することができましたね。具体的な課題も抽出するには大変良い機会です。ま

た、県外研修で他地域の団体を知ることができているのも大きなメリットです。

Q 地域づくりに関して、この機会に言っておきたいことがありましたら、どうぞ。

A 「自分たちの地域は自分たちで」というのは、地域づくりの基本になってきている時代だと思います。地域を学習し、発信し、交流し、ホストすることが活動として重要だと考えています。

ゼミ・県外研修編 (H19.6～8)

第3講 多様な主体の連携について考える

行政、企業、大学といった安定した組織と連携し、活動の幅を広げた各地の事例を検証しました。また、第4講の県外研修を有意義なものにするため、「活動の完成形ではなくプロセスを重視する」といった先進事例に接する際の心構えを学びました。



講義では、図解を用いた熱心な説明がなされる。

第4講 県外研修 活動の継続に必要なものを考える

7月21日(土)～22日(日)にかけ、まちなみ保存に取り組む長野県長野市松代町と、上高井郡小布施町を視察しました。

NPO 夢空間 「松代のまちと心を育てる会」

講師：香山篤美 事務局長



「NPO 夢空間～」は、「自分たちでできることは自分たちでやる」をモットーに作った組織であり、発足当時6名だった会員数は、現在150名を超えています。受講生からの「失敗談を聞かせてほしい」との質問にも「街を誇りに思うことの積み重ねが大事だと考えているので、例えばイベントに人が集まらなくても失敗したと思うことはない。」と、住民の意識を高めることの重要性をお話いただきました。

(株) ア・ラ小布施

講師：関悦子



「ア・ラ小布施」は、配当金が一切出ない地域の活性化を目的に設立された株式会社です。出資者のほとんどが個人ということからも、住民自らが地域活性化に取り組む姿勢が伺えます。関さんは、「小布施では、来訪・交流を目指すまちづくりに取り組み、観光の視点ではなく、住んでいる人にとってどうかという“生活者の視点”を大事にしている」と語ってくれました。

受講生インタビュー②

本田恭平さん

七尾市

七尾市の職員である一方、城址小丸山公園活かし隊の副隊長として、七尾の街を元気にするべく活動中。



客数を30万人から80万人に増加させたという松代の地域づくり事例を見たかったです。どうしてここまで出来たのか、なにがきっかけで、どんな人物が、ということが知りたくて。

Q 県外研修はご自身の活動にどういった影響を与えましたか？

A 地域づくりには、何といっても人材が必要で、地域を愛することが成功への第一歩であるということが分かりました。松代は25年かけて成果をあげていますので、自分が50歳に

なったときに、和倉温泉の宿泊客が小丸山公園や商店街に足を運んでくれるようにするため、一日一日を大切に活気ある町を目指していきます。

Q 地域づくりに関して、この機会に言っておきたいことがありましたら、どうぞ。

A 若くて元気な新隊員を待っています。活動に参加してくれる積極的な隊員を大募集！詳しくは私にお問い合わせください。

※最終頁にメンバー募集案内掲載

ゼミ・県外研修編 (H19.6～8)

第5講

自ら考え、まとめてみる

最終講は、講義や県外研修を通じて学んだことや今後の意気込みなど、受講生からの発表を行いました。今回の講座を通じて、「地域づくりには『人』が大事」ということを再認識した受講生が多かったようです。16人の受講生のうち、講座に7割以上出席した8人に修了証が授与されました。



インターン編 (H19.9～10)

講師：「NPO 法人加賀白山ようござった」 辻事務局長

講義だけでは知ることの出来ない地域づくりの実情を学ぶことを目的に、インターン編を開催しました。「NPO 法人加賀白山ようござった」へ2名の受講生がインターンとして参加し、実際に現場を見聞きました。普段知ることができない団体活動の裏側や現在に至る経緯などを知ることができました。



写真左から、辻事務局長と2人の受講生。

地域づくり塾(事例研究編)のお知らせ

受講料：全講一括 3,000 円 1 講単位：初回／2,000 円 2 回目以降／1,000 円

11 月から、地域づくり塾(事例研究編)がスタートします。金沢大学大学院教授の世古一穂先生とともに、全国から幅広い分野で活躍されている方々を講師にお迎えし、取り組み事例を研究します。

テキストとして世古先生著の『協働コーディネーター』を使用します(受講料に含んでいます)。お申し込み・お問合せは、いしかわ地域振興推進協議会事務局まで。

TEL.076-225-1312

第1講

「食を核としたまちづくり
～参加協働型のまちづくりの実践～」

- 講師 菅原 昭彦
- 講演日 11月1日(木) 19:00～21:30
- 講演場所 ITビジネスプラザ武蔵

第2講

「コミュニティ・レストランを通じての
地域づくり」

- 講師 伊藤 規久子
- 講演日 11月26日(月) 19:00～21:30
- 講演場所 ITビジネスプラザ武蔵

第3講

「協働の実践としての町家再生」

- 講師 松井 薫
- 講演日 12月6日(木) 19:00～21:30
- 講演場所 ITビジネスプラザ武蔵

第4講

「神戸・新開地のまちづくり
～協働で取り組む『FUNづくり』～」

- 講師 古田 篤司
- 講演日 12月15日(土) 13:00～15:30
- 講演場所 七尾商工会議所

第5講

「地域づくりフォーラム
～参加から協働へ～」

- コーディネーター 世古 一穂
- 講演日 1月12日(土) 13:00～17:00
- 講演場所 石川県地場産業振興センター
第6研修室

地域課題研究ゼミナール支援事業

キリコ祭りを核にした地域振興策の研究

大学コンソーシアム石川は、県内の高等教育機関と地域社会の連携を進める活動をしています。今号では、県からの委託により実施している地域課題研究ゼミナールについて紹介します。

「地域課題研究ゼミナール支援事業」は、県内高等教育機関のゼミナールが地域の課題解決を目指して地域と一体となって取り組み、その解決方を提言するものです。

平成19年度は、地域の課題について県内高等教育機関から36件の提案があり、審査の結果22件のゼミが採択されました。

具体的な取り組みとしては「白山市の名産品であるヘイケカブラの復活および地域おこし」や「唾液中ストレスマーカを用いた癒し効果検証による山中温泉のブランド力向上の試み」など地域の活性化を検討する課題の他、能登半島地震に関する課題も採択されています。



地元の方とともにキリコを修理する辻井ゼミ生。

今回はその中から2つのゼミの活動を紹介します。

- 観光客のキリコ祭り体験参加による
地域振興の検討 金沢星稜大学（堂下恵講師）
- 能登町の祭り・文化・経済の振興と
都市住民の交流・定住増加の可能性の調査研究
石川県立大学（辻井博教授）

担ぎ手不足で継承が危ぶまれる能登町内のキリコ祭りについて、石川県立大学の辻井ゼミと金沢星稜大学の堂下ゼミが、キリコ祭りに担ぎ手として参加し、住民へ意識調査のアンケートを行う等、キリコ祭りを核にした交流人口の拡大や定住促進の仕組みを、祭りを体験しながら検討、研究を行っている。

7月28日から始まった能登町石井地区のキリコ祭りに参加した両ゼミの学生らは、キリコ担ぎ体験だけではなく、早朝の掃除からキリコの組み立てなど準備の段階から祭りを体験することで、地元の方々と交流を深めた。



キリコを必死で担ぐ堂下ゼミ生。

参加した辻井ゼミの学生・高野渚さんの意見

キリコ祭りは、能登の自然や景色、地域の住民のやさしさとともに、これからも残していかなければならない、とても大切なのだと実感した。しかし、キリコ祭りだけで地域振興を図れるほど、簡単ではなく、能登には仕事、就職先が必要であると思った。キリコ祭りを観光客の集客

面で考えると、個人の観光客がキリコ祭りに急に参加するのは、安全面などからむずかしい面があると感じた。キリコ祭りに参加しようと最初から希望する団体を受け入れて、地域の方の了承を受けてツアーを組むなど、工夫があると感じた。

「能登回廊100選」の取り組み

『詩季織々』 <http://www.notohantou.net/kairou/>

能登半島地震から約6ヶ月が経過しました。道路の復旧や建物の再建などが本格化し、住民の表情にも明るさが戻ってきたようですが、観光客の足は平年ベースに戻らず、まだまだ風評被害が続いている状況です。県では、奥能登2市2町、民間事業者及び地域づくり団体等の参画を得て、奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会を本年5月に設立し、奥能登の活性化や交流人口の拡大に向けた誘客の仕掛けづくりに取り組んでいるところです。

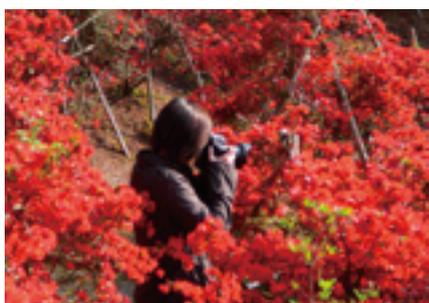
プロジェクトの一つに、写真家・織作峰子氏にご協力願って『能登回廊100選』の撮影がスタートしています。織作氏には、従来の観光スポットではなく、景観の素晴らしい道や、幹線から離れたローカル色豊かなわき道、歴史や伝統文化に触れることが出来る旧道などを巡ってもらっています。そこには、奥能登の風光明媚な海岸線はもちろん、能登特有の家並みや現代に今なお営まれている農山漁村の生活、それにまつわる食文化、勇壮な祭り、伝統工芸など、日本の原風景を表すお宝が数多く見受けられます。撮影取材は、ほぼ毎月行われており、撮影された写真は、織作氏の感想も添えて、随時、ホーム

ページ『詩季織々』(<http://www.notohantou.net/kairou/>)の中で全国発信しています。最終的には『能登回廊100選』として選定する予定でいます。

一方、『能登回廊100選』からの新たな視点を参考に、プロジェクトチーム（奥能登2市2町、民間事業者及び地域づくり団体の若手実務者11名）において、旅行者の目線を意識したテーマ性のあるモデルコースづくりに取り組んでいます。従来の観光スポットを巡るモデルルートではなく、これまで光が当たっていない地域に足を運んでもらえるよう、『寄り道のテーマ』を提示し、定番スポット（能登空港や主要な観光地）からちょっと足を延ばしてもらえるよう仕掛けていきたいと思えます。また、それに付随して、『寄り道のテーマ』に到る道路や案内表示等の整備、交流拠点である『道の駅』の活用についても検討していきたいと思っています。

奥能登の風景やそこに息づく風土は、一つひとつは素朴ですが、有形無形の魅力あるお宝が数多く存在します。是非、奥能登へ訪ねた折は、ちょっと寄り道していただき、地域のお宝を発見する喜びや感動を味わっていただきたいと思えます。

珠洲市正院町のノトクリシマツツジ。(5月7日)



能登町の植物公園。(6月25日)



穴水町沖波の大漁まつり。(8月18日)



国際交流のプラットフォームを 加賀国際交流会「たぶんかネット加賀」

加賀国際交流会「たぶんかネット加賀」 <http://tabunkanet.exblog.jp/>

加賀市も国際交流に関わる団体や個人に参加いただきネットワーク組織をつくる必要性を感じました。そのために、今年2月に加賀国際交流会「たぶんかネット加賀」を立ち上げました。加賀市内に在住する外国人との交流をはじめ、ネットワークづくり、情報の収集・発信活動を行っています。

日本文化に触れていただくために、3月の「ひなまつり」、4月の「墨で遊ぼう」、5月の「端午の節句」を蘇梁館^{そりょうかん}で開催。山代温泉の「菖蒲湯祭り」の際には、山代音頭流しに市内企業の研修生と参加したり、山中温泉の「こいこい祭」の輪踊りにも参



国際交流ひな祭りでの記念撮影。

加。夏休みには、こどもを対象に「多文化共生ワークショップ」を実施、多文化共生を多方面からアプローチし、その豊さを感じてもらいました。

ネットワークづくりの活動としては、「いしかわ国際交流団体ネットワーク会議」「北陸都市国際交流連絡会」「石川地域づくり協会」などにも参加しています。

今後の活動としては、企業研修生と地域住民との交流を促進するために「クッキング交流会」などを開催したり、多くの言語での語学講座なども計画しています。

国際交流に関する情報の収集と発信は日常的に行うことが不可欠であり、とりあえずブログ (<http://tabunkanet.exblog.jp/>) での情報発信を行っています。

年会費 1,000 円で参加協力いただける個人会員や 10,000 円の企業会員を常時募集しています。

加賀国際交流会「たぶんかネット加賀」

TEL. 0761-72-5350

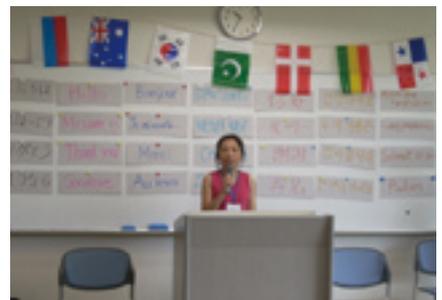
事務局 加賀市熊坂町ハ 28-3「蘇梁館」内

<http://tabunkanet.exblog.jp/>

(石川地域づくり協会コーディネーター 高峰博保)

多文化共生ワークショップでは子どもたちも発言。一緒に作って、一緒に食べることが交流の基本。

世界の言葉を知ることから始める。



5-b 県内で活躍する団体の紹介

事業を通じて雇用創出を図る 菅谷町活性化協議会

菅谷町活性化協議会 http://www.geocities.jp/kaga_yamabousi/index.html

平成 12 年、「私たちの住む西谷地区の活性化構想」が策定されました。それを踏まえて、平成 14 年に「第一回コスモス祭り」を行い、地域の物産を集めたテント市も開催しました。「コスモス祭り」は以後毎年秋に開催しています。平成 15 年には「菅谷地区活性化計画書」をとりまとめ、地区内を散策する人を増やすために、看板や道標を設置。平成 16 年には、地区の真ん中に位置する民家が空いたので、町に買いあげてもらい、それを改装し、地域を訪れる方々のご案内やトイレ・休憩など総合案内所として、また、手打ちそばと郷土料理を提供する「食彩館山ぼうし」、木地挽きろくろ実演の見学とろくろ挽き体験ができる「木彩館けやき」などを整備しました。「食彩館山ぼうし」などの運営は、地区の住民 60 余名が出資して設立した有限会社みやまが行っています。

平成 18 年は、バス停のそばに「ろくろの里お休み処」を建設。平成 19 年は、菅谷町会館のそばに、水郷公園を整備中で、水車を設置し、その動力でろくろを利用する予定です。今後は、古民家の活用がテーマとなっており、計画づくりを進めています。竹細工や藁細工などのものづくりが見られるような施設を目指しています。さらに、用水路を石積みにかえる

ことも計画中です。

特産品開発にも積極的に取り組んでおり、現在までに餅や漬物、にしんの麴漬けを商品化してきていますが、さらに新たな商品開発も進めています。

菅谷での活動は地域の中で雇用を創出すること、また、地場の野菜・山菜・工芸品を活かすことが目的であり、そのためには収益が生まらせる事業に育てることが当面の課題となっています。

菅谷町活性化協議会 TEL.0761-78-0051

加賀市山中温泉菅谷町へ 225 番地 1「食彩館山ぼうし」
http://www.geocities.jp/kaga_yamabousi/index.html



ろくろの仕事が見学できる工房も多い。

(石川地域づくり協会コーディネーター 高峰博保)

地区内に設置された道標。



前面で野菜も販売している「山ぼうし」。



山ぼうしで提供している手打ちそば。



6-a NEWS & INFORMATION

「NEWS & INFORMATION」はあなたの団体のイベント告知や、活動メンバー募集などを掲載するページです。掲載ご希望の団体は事務局までご連絡下さい。

地域づくりとは何？

地域づくり活動への思い

石川地域づくり協会運営委員長 能登乃國ゆすぎ塾 塾長 大湯章吉

地域づくりとは、時代と共に発生する地域課題に対して、住民自らが考えながら行動する活動であります。そして、そのことは過去、現在、未来へと引き継がれていくものです。地域づくり団体組織は永久ではなく、生物体と同じく寿命があり、生まれては死んでいくものです。地域の豊さとは、地域づくり活動や活動組織の死骸が腐葉土になって厚みを増すことであります。腐葉土の豊富な地域には、新しい種がすくすくと伸び、花や実をつけることができます。

自らの組織の寿命や解散を意識することで、組織の本質が見えてくるものです。「目標を達成」「達成が困難」「目標を見失った」「活動が停滞」したら、惜しげもなく解散することも大切なことです。そして、新たなエネルギーで組織を生み出すのです。炭焼きの雑木は15年～20年で切り、ローテーションをすることで、雑木の再生力が高まると言われています。地域づくりの組織も、老木になる前に切り取り、再生力を高めることが大切です。

地域づくり活動は「人を集める」のではなく、「人が集まる」ことにあります。「善意の押し売り」を止めて「必要なことを実行する」のです。「誰かが」ではなく「自分から」、そして「一人から」始めることで、地域づくりは

動き出します。口に出したり、行動することで共感が得られるものです。同じような事を考えている人が、周囲に沢山いることに気付くはずですよ。

地域づくり活動を難しく考えないで、身近な課題や問題を共感する人と一緒に楽しく取り組めば良いでしょう。地域の中で、いろいろな地域づくり活動が重なり合うことが地域を豊かにしてくれます。

<活動ワンポイント・アドバイス>

目標が抽象的だったり過大の場合に、組織自体の集中力や団結力、モチベーションが下がり、活動停滞に陥ることがあります。このような事態にならないためには、目標を小刻みにして、当面の目標を達成していく手法が良い結果を生みます。そして、小刻みの目標が達成したら「褒美」を出すことです。例えば「このプロジェクトが終わったら温泉で慰労会」のような、励みになる「褒美（全体だけでなく個人の褒美を含めて）」を皆で掲げるのです。そして、目標と褒美を寄せ書きして、拠点になっている施設等に貼り出すのです。寄せ書きは必ず自筆にしないと効果は半減します。ぜひ試してください。

特定非営利活動法人 能登ネットワーク

参加のお問合せ 0768-23-1177

活動
メンバー
募集

能登の真の魅力の追求・発信をし、能登の発展に寄与する事を目的に活動を展開。能登半島地震発生後1年を経過する来年3月には、「能登元気列車」事業を走らせ、能登の元気をPRする。

- 活動日 通年
- 活動地域 能登
- お問合せ TEL.0768-23-1177 FAX.0768-23-8989

特定非営利活動法人 輪島市地域づくりNPO

参加のお問合せ 0768-23-1177

活動
メンバー
募集

市民・行政・企業らによる協働の地域づくりシステムの構築に向けさまざまな取り組みをしている。今後も輪島で一番歴史のあるNPO法人として、各団体との連携を図って行きたい。

- 活動日 通年
- 活動地域 輪島市内
- お問合せ TEL.0768-23-1177 FAX.0768-23-8989
npo@wajima.ne.jp

城址 小丸山公園活かし隊

参加のお問合せ 0767-52-1231

活動
メンバー
募集

〔活動内容〕

年4回の城址小丸山新聞発行
小丸山ぴかぴか大作戦（清掃活動）
小丸山ウォークラリー 等

- 活動日 毎月2、3回
- 活動地域 七尾市中心市街地、小丸山公園
- お問合せ 城址 小丸山公園活かし隊
七尾市松物町 57-10（情報処しるべ蔵内）
〒926-0048 TEL.0767-52-1231

漬け物祭りと朝市の止め市

参加のお問合せ 076-257-5683

イベント

地元の食材で作るめった汁を来店者全員にサービスすると共に、漬け物シーズン到来のこの時期、漬物用白菜・大根・カブ等を箱売りにて格安で販売します。

- 開催日時 平成 19 年 11 月 11 日（日）
- 会場 金沢市朝日牧町地内
（国道 359 号 JR バス朝日牧町バス停前）
- お問合せ 金沢市千の杉町 31 窪 正之
TEL.076-257-5683 MOBILE.090-3293-0065

勸進帳ものがたり館 企画展 「描かれた 義経一代記」

参加のお問合せ 0761-21-6734

イベント

「義経一代記」と題し、義経関連の作品を二部に渡り展示。今回は第一部「生い立ち～出立」として数々の作品を展示。迫力ある「義経一代記」にお越しください。

- 開催日時 平成 19 年 12 月 18 日（火）
- 会場 安宅の関 勸進帳ものがたり館
- 参加費 無料
- お問合せ （財）安宅観光協会 TEL.0761-21-6734

地域づくり「円陣」

参加のお問合せ 076-225-1312

イベント

「震災復興から持続可能な地域づくりへ」をメインテーマに据え、地域づくり活動の今後のあり方について総合的に考察します。

〔内容〕

- セッションⅠ 「災害ボランティア活動から
連携・協働による地域づくりへ」
- セッションⅡ 「住宅とコミュニティの再建を考える」
- セッションⅢ 「地域振興への道～仕事づくり～」

総括

- 開催日時 平成 19 年 12 月 1 日（土） 13:00～
- 会場 能登門前ファミリーイン ビューサンセット
- 参加費 無料
- お問合せ 石川地域づくり協会 石川県金沢市鞍月 1-1
（石川県庁企画振興部地域振興課内）
TEL.076-225-1312 chiiki1@pref.ishikawa.lg.jp

地域課題研究ゼミナール 支援事業「成果報告会」

参加のお問合せ 076-223-1633

報告会

11 頁で紹介した地域課題研究ゼミナールの学生たちが地域課題に対する研究成果を発表します。金沢と能登の 2 会場で実施しますのでお近くの会場にお越しください。

- 金沢会場 平成 20 年 1 月 13 日（日）
いしかわシティカレッジ教室
- 能登会場 平成 20 年 1 月 27 日（日）
能登空港ターミナルビル
- お問合せ 大学コンソーシアム石川事務局
TEL.076-223-1633